

# 衆議院災害対策特別委員会ニュース

平成 26.10.10 第 187 回国会第 3 号

10 月 10 日（金）、第 3 回の委員会が開かれました。

## 1 災害対策に関する件

- ・ 山谷国務大臣（防災担当）、西村内閣府副大臣及び政府参考人に質疑を行った。

（質疑者及び主な質疑内容）

### 泉 原 保 二君（自民）

- ・ 9 月 27 日に噴火した御嶽山では、9 月 11 日及び 12 日に低周波地震が観測されており、一部の学者からは、その時点で噴火警戒レベルを引き上げるべきであったとの指摘がなされているが、気象庁の見解を伺いたい。
- ・ 火山が噴火した際、飛んでくる噴石から登山者の身を守る避難壕（シェルター）の設置を促進させることに対する政府の見解を伺いたい。

### 漆 原 良 夫君（公明）

- ・ 御嶽山噴火直前の情報提供においては、防災上の警戒事項として地震・噴火に対する注意喚起はされていたものの、噴火警戒レベルは 1 の「平常」とされていた。一般人からすると安全であるとの誤認を生じかねないと思うが、噴火警戒レベルの周知方法に対する山谷大臣の所見を伺いたい。
- ・ 御嶽山の周辺地域では噴火による風評被害も含めた観光への影響や農業被害が報告されている。これらの被害の把握状況及び今後の対応について、観光庁及び農林水産省に伺いたい。

### 泉 健 太君（民主）

- ・ 御嶽山は現在、活動火山対策特別措置法に基づく避難施設緊急整備地域に指定されていないが、今回の噴火を踏まえて、新たに同地域に指定することは検討しているか。
- ・ 御嶽山噴火の後、緊急時にも関わらず、内閣府の防災担当部局に第一報が入った時刻は遅く、また、連絡を受けてから山谷大臣が内閣府に入るまで時間も掛かった。情報収集・連絡及び参集等について、初動の在り方を見直すべきではないか。

### 井 出 庸 生君（維新）

- ・ 御嶽山では、捜索隊員が高山病にかかるなど、厳しい条件下での捜索が続いている。寒さも厳しくなる中で、いずれ捜索活動を取りやめる判断をしなければならぬときが来ると考える。この判断はどのようになされるのか、伺いたい。
- ・ 2 月の大雪により農業用ハウスに被害を受けた農家からは、

ハウスを再建・修繕するための「被災農業者向け経営体育成支援事業」による補助金が手元に届いていないとの声が上がっている。同事業の現在の進捗状況を伺いたい。

### 中 丸 啓君（次世代）

- ・ 広島県の土砂災害を踏まえて、自衛隊、警察、消防が現地でスピーディーに行動するため、災害時における指揮命令系統の一本化等非常事態法制の検討が必要である。憲法の改正も視野に入れた国民的議論が必要と考えるが、山谷大臣の所見を伺いたい。

### 山 内 康 一君（みんな）

- ・ 広島県の土砂災害に対する検証の状況及び教訓とすべき事項について、内閣府及び国土交通省に伺いたい。また、がけ地近接等危険住宅移転事業の現状と国民への周知について、国土交通省に伺いたい。

### 高 橋 千鶴子君（共産）

- ・ 24 時間体制で常時観測を行う活火山については、体感を観測に生かし、地方自治体と情報を共有していくために、現場に近い場所での観測を行っていく必要があると考えるが、気象庁の見解を伺いたい。

### 小宮山 泰 子君（生活）

- ・ 「首都直下地震緊急対策推進基本計画」が本年 3 月に閣議決定されてから概ね半年を過ぎたが、現在の取組状況について伺いたい。特に、建物の焼失棟数を大幅に減らす感震ブレーカーの普及に対する取組はどのように行っているのか。

本ニュースは、速報性を重視した概要版として事務局において作成しているものです。  
詳細な内容については会議録を御参照ください。